

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601738
法人名	株式会社さくら苑
事業所名	グループホームさくら苑 (ユニット名 1F、2F)
所在地	福岡県久留米市南1丁目17番1号
自己評価作成日	令和7年10月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=4071601738-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和7年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は久留米市内でも都市部に近く、高齢化率は低いものの高齢世帯、高齢者単身世帯の多い地域にある。平成15年12月の開設より、地域の中で生活されている認知症の方々の住む『家』として事業を行っている。ご利用者様と共に地域の祭りごと等にも参加し地域住民として、安心して暮らして頂ける様に支援している。日々ご利用者の心身の状態に一喜一憂しながら、同じ『いえ』に住む疑似家族として支援を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はバイパス沿いの便利な商業地からすぐの住宅街にある。小中高校も近隣にあるため通学や散歩をする人々の往来も多く、生活感のある環境となっている。町内会の活動や行事にも事業所として積極的に参加しており、地域の方と交流する機会も多い。職員は、利用者を自分の家族のように思いながら日々の支援にあたっており、会話も多く明るい表情で過ごせているように見受けられる。管理者は、職員同士も家族のように考えており、働く環境もできるだけ仲良く楽しくなるようにしている。「利用者の方が好き」と笑顔の職員が多く、良好な関係性がうかがえる。これからも地域福祉の拠点として発展していくことが期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念の唱和をしている。毎月のカンファレンス時には、ケアの方針を話し合い、今後のケアを検討している。	玄関や室内等に理念を掲示している。理念に沿って今年の目標を全体で話し合い共有している。職員は利用者が自分の家族という気持ちで対応し「家」として安心して地域で過ごせる様に配慮しケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り、清掃作業、年末の夜警等に参加して、地域との交流を行っている。	利用者はベランダから通学中の小学生に手を振りあい、散歩時には地域の方と挨拶等を交わしている。地域の方が敷地内の草取りを手伝ったり、採れた野菜や果物を届けられたりしている。調査時も近隣の方から、新品の紙パンツの寄付があり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターの呼びかけで地域の認知症利用者への対応講座等に参加し、認知症の理解を深める活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の運営推進会議にて、市職員、地域の自治会、他の施設の方々の意見等を聞き、サービスの向上及び改善点につとめている。また施設内で行った研修等を会議の場で広げ施設内での活動を伝えることも行っている	運営推進会議には利用者とその家族も随時、交代で参加している。参加者からは事故等の報告を詳しくしてほしいと質問があり丁寧に返答している。社内研修で行った内容を説明して事業所の取り組みについての理解を広めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人の代表者が久留米市介護福祉サービス協議会の代表をしている。久留米市内の事業所の実情等を把握し行政機関とも協力関係を築けている。	地域包括支援センターの研修に参加予定がある。市の介護保険課に加算や事故の報告書等について電話での相談や直接出向いて尋ねたりしており、いつでも情報の共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関、フロアの施錠はせずスタッフの見守りのもとで行っている。また身体拘束はもとより、スピーチロックなどグレーな身体拘束にも注意を払ったケアの取り組みを行っている。	一人で出かけようとする方にはセンサーや見守りで対応している。身体拘束についての研修や委員会があり職員は参加して身体拘束で禁止の行為等についても理解している。スピーチロックは管理者や職員それぞれの立場からその場面で適切な対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の虐待防止研修を全スタッフに実施している。また月に1回のカンファレンス時にはスタッフ互いに虐待防止につながるような話し合いに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑の玄関に成年後見制度についてのパンフレットを設置している。また社内でも権利擁護に関する研修に取り組み知識の定着に勤めている。また成年後見制度などの必要な利用者には必要に応じて説明を行っています。	成年後見制度や日常生活自立支援事業についての研修が法人全体で年1回あり、また数回の社内研修もあり、職員は資料や動画で理解を深めている。現在、成年後見制度を利用している事例があり、制度について尋ねられた時の体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前の見学、ご家族様との会話を重ね納得されたうえで入居していただいている。入居後も面会時に近況報告を行い信頼関係を築くようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中でご利用者様の体調などに変化があった際には、ご家族様にお電話やメールにてお知らせしている。年に2回家族会を開き、日頃の様子をお伝えして、時にはご家族様の意向を聞き反映するようにしている。	家族会としてホテルで開催した敬老会や母の日等で利用者、家族や関係者との交流を踏まえ、意見や要望を確認して運営の中で反映に努めている。また日常的に電話や面会、メールで意向等を聞き対応をしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回運営会議を開き、各フロアのカンファレンスで出た意見を管理者より会社へ伝えている。年に1回全体会議を行い、スタッフからの意見や提案を直接聞ける機会を設けている。	職員は会議やミーティングへの参加、申し送りノート等を活用して意見や提案ができる体制がある。また日常の業務の中でも管理者等に伝えやすい雰囲気がありその都度話し合いをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系・職能給基準を明確化した上で管理者が評価し、代表者へ申し出るシステムを構築。自己評価を含め、各職員がやりがい・向上心が持てるよう配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたって、年齢、経験問わず、高齢者の方への思いやりを重視して採用されている。	幅広い年齢層で男女問わず、また近隣に寮を併設し外国人の方も採用している。職員は得意の折り紙等で利用者と楽しみ、能力を活かし働いている。希望休暇や産育休、有給休暇もとりに易く子どもの発熱等での休みに対しての理解もあり、働きやすい環境がある。資格取得への助成もある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部や社内研修を行い、人権教育の学びを増やしている。スタッフ同士、報告書に目を通して互いの思いや、考え方の共有をしている。	社内研修や全体での人権教育研修を年1回を行っている。職員は、利用者に対しての声かけやケアの中で尊厳を持って対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や、社内研修を頻繁に行い、研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングする事で、知識、実力の向上を目指し、取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他の介護福祉事業所との交流をしっかりと行い、情報共有やサービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、訪問し困り事や要望お聞きしている。入居後は、その方の意思や希望聞き、フロアで話し合い信頼関係に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族の困り事を聞きその後の方向性を決める。又遠方におられる家族には、メールやSNSなども活用し都度連絡や確認がとれる体制を作っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で利用者、家族、職員と面談行い意思や希望など確認しながら必要時、訪問マッサージ、訪問歯科など必要なサービスを利用出来るように対応している、		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意思を、尊重し、否定せず、出来る事を職員と一緒に、取り組んでいる。また家族にも、これまでの生活歴など尋ねて信頼関係を築き、より良い関係を築いて行けるように取り組んでいる。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の苑での生活を支え定期的に面会に見えるご家族様に対しては日頃の様子をお伝えし関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事などに参加出来る支援を行っている。 又、年間通して外出支援を取り入れなじみの場所にも訪れることができるよう支援をしている。	職員は利用者の年賀状や手紙のやり取り、電話の取次ぎ等をその都度対応している。地域の祭りに利用者と参加したり、馴染みの店へ買い物に行ったりする等の支援をしている。家族からは法事や外食等で外出支援の協力があり、これまでの関係継続に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ラジオ体操や洗濯物たたみを一緒にして頂くなど入居者同士が関われる環境を多く見つけ共同生活が送れるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても年賀状でやり取りをしたり関係が続くよう努めている。 また以前入居された方の親族もご入居頂いたりと関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が入居者の日頃の情報などを月一回のミーティングの時などに共有をしている。 ご本人、ご家族の意向に沿えるように努めている	日常生活の中で職員は利用者の思いを聞き取っている。困難な場合は家族に生活歴を尋ねたり、本人の表情や仕草から思いをくみ取り、職員間で共有し本人が暮らしやすいように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面談の際には生活歴をよく把握したり、ご家族の面会時に聞き取りを行うなどしている。それを基にコミュニケーションを図りサービスの利用の経過の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日利用者様の表情や言動を観察把握し利用者様の日々の過ごし方や体調等を考えスタッフ同士で必要な支援を共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の思いやご本人様の気持ちを聞きながらスタッフのミーティングでの話し合いをしながら対応している。	職員は利用者2名を担当しており、カンファレンスで職員全体で話し合いまた利用者・家族・主治医・その他関係する訪問看護師等と意見交換している。原案を作成して、ケアマネジャーと検討し家族に電話や郵送、家族訪問時に確認して頂きケアマネジャーが介護計画を作成して。利用者の状態変化時に見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノート、個別ノートを活用しながらケアを提供している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々でご家族ご本人と寄り添いながら個別ニーズを適切に捉え支援している。例えば看取り時などは、居室内へソファを用意しいつも家族と入れるような環境をつくるなどの対応もしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域消防署の立ち会い訓練や地域のお祭りへの参加、施設での子ども110番活動、近所の方との交流などを通じて、地域とのつながりを大切にしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科訪問診療を実施し、緊急時にも迅速に対応できる体制を整えている。入居前からのかかりつけ医がいる方には継続受診ができるよう調整し、必要に応じてご家族の協力も得ながら、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	本人・家族が望まれるかかりつけ医の継続で現在4ヶ所からの往診がある。他科受診の場合は原則家族にお願いしており、心身状況により職員も同行している。定期受診の場合は利用者の状態等を家族に伝え、また相互に情報共有して適切な医療が受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調変化や気づいた際は申し送りや記録を通じて看護職と共有し、日々のケアに活かしている。施設内の看護師だけでなく、かかりつけ医の看護師とも連携を図り、適切な判断・対応ができるよう努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療機関と連携し、利用者の生活状況や既往歴、服薬状況などの情報を共有している。ご家族とも協力しながら退院後も安心して生活できるよう支援しており、必要に応じて職員が送迎するなど、スムーズな移行をサポートできる体制を整えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りまで行っていることを説明しご意向を伺っている。状態が重度化や終末期に向かわれている際には主治医や訪問看護ステーションなどと連携しご家族と情報共有を行っている	職員は看取りの経験も多く、現在重度化や終末期の対応をしている。家族・主治医・訪問看護・職員等が連携し情報共有して、家族に今後想定される事を伝えている。職員には変化時の対応を伝えており、夜勤時も管理者と連絡が取れる体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医の意見などから予測される対処法を事前に確認することが出来ている。定期的な研修も行い事例検討を行っている。緊急時の連絡の順番なども職員全員へ周知を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練(1回は消防職員立ち会い)水害訓練、(垂直避難訓練)地震避難訓練などの実施を行っている。避難経路の確認や不要な物が置かれていないかなどの点検もやっている。	職員は年2回火災訓練を行い、1回は昼間に消防署が立ち合いのもと夜間想定で机上訓練を行い、避難場所も理解している。水害、地震等の研修もあり有事に利用者が安全に避難できる様に務めている。食糧や水、衛生用品等の備蓄もしており賞味期限の管理もしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護理念に基づき、ご利用者様の尊厳を大切にしている。職員同士適切な言葉かけや対応ができているかを都度、定期的に省みながら、利用者様が安心できる様な対応が出来る様、チームとして取り組んでいる。	職員は利用者の人格や誇り、プライバシーを大切に言葉かけや対応に気をつけて接している。居室への入室時のノックや声掛け、トイレ誘導時や入浴時のプライバシーも配慮した対応を行っている。書類は鍵のかかるロッカーに保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の出来る利用者には、しっかり話を傾聴して決めている。 意思表示の出来ない利用者には表情を見て判断している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々に思いもある為、自尊心を尊重したケアができるようスタッフ間で意見を出し合い情報を共有している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は2ヶ月に1回行っている 自己決定のできる利用者には起床時に着る服を決めていただいている。 食事で服が汚れたら着替えていただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にテーブルを拭いていただいたり嚥下体操を皆で行ったりしている。 また、食後には皿洗い、お盆拭きの手伝いもしていただいている。	庭の畑で採れた野菜と一緒に収穫し調理に取り入れたり、利用者は豆の筋取り等の下処理や食器洗いを職員と一緒にしている。週1回はパン食で洋食を取り入れている。毎食には手作りのフルーツヨーグルトを提供し、季節の行事食やイベント食、レクリエーションとしておやつ作り等で楽しく食事できるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりご利用者様の状態を見て、栄養バランスが取れる食事や水分を適量で行っている。アレルギーの有無の把握や1日を通して食事量や水分量を記録し、好みの飲み物等を提供し、支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で歯を磨ける方には声掛けを行い口腔ケアを促している。困難な方にはスタッフがご利用者に声掛けし、スポンジブラシや歯ブラシを使い口腔ケアをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄のパターンを記録し、時間を見て、声掛けにてトイレを促したり、排泄介助を行い失敗が減るよう支援している。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、適宜に声掛け誘導する事で使用するパットの枚数が減ったケースがある。また服薬が合わず失禁が多い利用者は、主治医と相談し薬を調整する事により、オムツからリハビリパンツに改善した事例がある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者の排便のパターンを記録し、毎日の運動や食物繊維の多い食事、乳製品を提供する様心がけている。また、水分摂取量も毎日記録し、便秘にならないよう支援している。未排便が続く場合はドクターと相談して対応をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回個浴にて入浴支援をしている。本人様の身体状況やその日の体調を見て午前午後に入浴時間を分けたりなど、その方にあった入浴方法で入浴を行っている。	週2回は入浴できるように支援をしている。入浴を拒まれる場合は時間をあけたり他の職員が声掛けをしたり別日に変更等の対応している。発熱時などは清拭と着替えを行い、一人での入浴を希望する場合は家族の同意も得て対応している。本人希望のシャンプーやリンスを持ち込まれている利用者もいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様が寝たいと言った時間に寝ていただき安眠できるよう声かけを行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日常の様子をかかりつけの医師に伝え連携をとり薬の指示を薬剤師から説明を受け服薬支援を行っている。薬のファイルを作りいつでも確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様のできる状態に合わせて洗濯物量み、お盆拭きなどをしていただいている。カレンダーの色塗りや壁飾りを一緒に作ったりしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩などにお誘いし気軽に外出できるよう努めている。普段いけな場所へはなかなか支援できないが、ご家族と外出されたりしている。	天気の良い日は近隣を散歩したり、桜など季節の花々を見に戸外で出る機会を作るように努めている。夏季は猛暑が続き外出はむずかしく、庭やベランダに出て外気浴を行い、利用者が外の空気に触れる機会を作っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル防止の為に、施設内で金銭の扱いを禁じており実施できていない。以前利用者間やスタッフ間でのトラブルがあった、利用者支援には難しさがある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される際は、ご家族へ電話をしている。イベントを通して手紙を作成したりすることもある。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には温度計湿度計を設置し、客観的な情報をもとに快適な空間づくりに努めている。	共用の居間ではソファでくつろぎながら利用者同士の会話が弾んだり、ベランダから畑を眺めたりしてそれぞれのんびりと過ごしている。通路には季節の飾りや家族と一緒にの写真を貼りだしたりしており、和やかな雰囲気となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が共同空間に於いて仲良く安心して過ごして頂くよう一人一人の好みや行動パターンを観察し配慮するようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に居られる時は快適に安心して過ごして頂くように入居時にご家族様と相談しながら見慣れた写真、家具など持って来て頂き居心地の良い空間作りに努めています。	寝具一式は事業所で準備しており、本人が使い慣れた椅子や毛布、テレビ等を持込んでいる。壁には配偶者と一緒にの写真を貼っていたりと本人が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活の中で安全に配慮しながらスタッフの手伝いが出来る利用者様には洗濯物量み、お盆拭きなど役割を持ち手伝って頂いている。その後しっかりお礼を伝える事でスタッフとの信頼関係を築いている。		